

平成19年度研究調査報告

地域の活性化と修学旅行の役割

財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

今年度の調査にあたって	1
修学旅行に関する意識調査 1（これからの修学旅行のあり方について）...	2
1．実施目的	
2．調査対象と回答数	
3．調査実施日	
4．調査項目と回答集計	
今後の修学旅行の必要性	
行事の名称についての考え	
修学旅行の「ねらい」	
「ねらい」達成のための学習内容	
修学旅行の学習を展開する目的地	
往復・現地での利用交通機関	
旅行に要する日数	
利用したい宿泊施設	
見学地・宿泊施設への要望	
5．考察	6
修学旅行に関する意識調査 2（各地方観光行政の意識）	7
1．実施目的	
2．実施対象と回答数	
3．調査実施日	
4．実施項目と回答集計	
修学旅行誘致の必要性	
誘致が地域活性化に役立つ内容	
修学旅行誘致に際して、力を入れている分野	
修学旅行誘致に際しての課題	
具体的方策として取り入れたい重点項目	
施策実施の主体	
地域の特色（アピールしたい価値・魅力）	
5．考察	9

今年度の調査にあたって

本協会の主要な活動として、修学旅行に関する調査研究活動がある。毎年、テーマを設定して、現状分析し、情報を各方面に発信している。

本年度は、今まであまり触れられていなかった修学旅行に関する考え方・捉え方についての調査を実施することにした。

修学旅行の最終的命題として、「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」という課題がある。すなわち、旅に出て、未知なる世界の中で文化・自然・人々との出会いは、数々の感動が体感できるものである。その成果は、訪れる人の希望と地域の資源の開発との総和の豊かさにかかっている。

観光には、地域の光（地域の優れた特色・価値）を誇りとして示すこと、その光を心を込めて見る事の意味合いがあるといわれる。その一体化が素晴らしい「旅」の成立となる。修学旅行をこの点から捉えると、地域おこしの視点から新たな演出が求められる。そのために、地域の伝統・文化・歴史・産業等を機軸とした学習素材の開発が重要な鍵を握っている。

その基本となるのが「体験」である。体験とは、個々の人の内面で感得される経験といえよう。その体験の中心となるのが交流活動である。ものづくりを体験するにしても、そこに携わる方々との語らいや、そのものが創られてきた人々の知恵や歴史を知ることが重要であり、このような人々との心の交流から新たな地域の文化が生まれるのである。

今年度は、このような考えに立って、

調査 1 各学校の修学旅行の実施に対する考え方を捉える。

調査 2 修学旅行の誘致に関して各地方観光行政の考え方を捉える。

という2つの側面から修学旅行のあり方を調査し、今後の修学旅行の方向を想定したいという願いである。

ご多忙の中、ご協力いただいた各方面の方々には心から感謝申し上げます。

平成19年7月

（財）全国修学旅行研究協会

（調査担当） 調査1：久保 行正

調査2：吉野 憲二

修学旅行に関する意識調査1

(これからの修学旅行のあり方について)

1. 実施目的

中央教育審議会では、学習指導要領の改訂に向けた議論が進行している。その中で、学校行事のあり方も議論の対象になっている。特に旅行・集団宿泊的行事に位置づけられている修学旅行のこれからのあり方について、公立中学校の意識を探ることを目的とした。

2. 調査対象と回答数

対象校種 国公立中学校
対象地域 47都道府県、17政令指定都市、計64地域
対象校数 各地域10校、合計637校(閉校3校)

	対象校数	回答数	率%	備考
北海道	20	9	45.0	
北・東北	30	18	60.0	
南・東北	40	23	57.5	
関東	110	53	48.2	
甲信越	39	29	74.4	閉校1
東海	70	37	52.9	
北陸	30	14	46.7	
近畿	100	53	53.0	
中国	58	29	50.0	閉校2
四国	40	22	55.0	
九州	90	45	50.0	
沖縄	10	7	70.0	
未記入	0	1		
合計	637	340	53.4	閉校3

3. 調査実施日

平成19年4月

4. 実施項目と回答集計

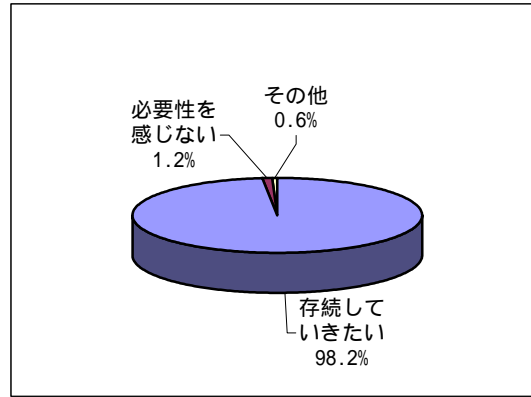
今後の修学旅行の必要性
行事の名称についての考え
修学旅行の「ねらい」
「ねらい」達成のための学習内容
修学旅行の学習を展開する目的地
往復・現地での利用交通機関
旅行に要する日数
利用したい宿泊施設
見学地・宿泊施設への要望

問1 今後、修学旅行の必要性についてお伺いします。

ぜひ存続していきたい	334
必要性を感じない	4
その他	2
合計(回答校数)	340

修学旅行の必要性を感じない理由

- ・実態として見学旅行は、あっていない
- ・誰もがいつでも旅行できる時代となったので
- ・観光的な要素が強い

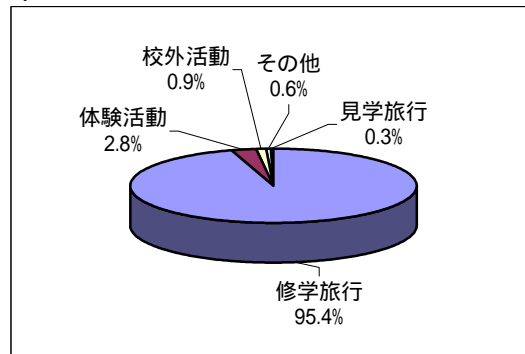


問2 実施される場合、行事の名称をどのようにお考えですか。

修学旅行	309
体験活動	9
校外活動	3
その他	2
見学旅行	1
野外活動	0
合計	324

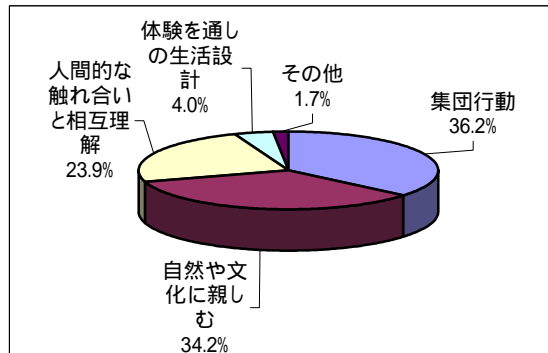
その他

- ・学習旅行、自然体験、
- 宿泊体験学習、 研修など



問3 その実施される行事の最も重視したい「ねらい」をどこにおかれますか。(2つ以内選択)

集団行動を通して、自律心・規律や秩序を守る態度を養う	229
自然や文化に直接的に親しむ機会とする	216
人間的な触れ合いを通して、生徒の協力体制や相互理解を深める	151
職業等の体験を通して、自己の生活設計に役立てる	25
その他	11
合計	632



その他

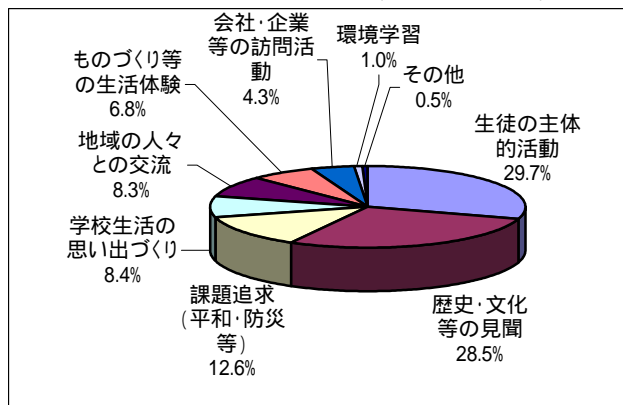
- ・生きる力をはぐくむ、義務教育の集大成、思い出づくり、総合学習の課題探求、社会性と行動力を養う
- ・平和学習、人権学習、国際交流、社会科の校外活動等
- ・総合的学習の一環として、体験等を実施し、学習内容を深める

問4 問3のねらいを達成するために、どのような学習を展開したいとお考えですか。(3つ以内選択)

生徒の主体的活動	258
歴史・文化等の見聞	247
課題追求(平和・防災等)	109
学校生活の思い出づくり	73
地域の人々との交流	72
ものづくり等の生活体験	59
会社・企業等の訪問活動	37
環境学習	9
その他	4
合計	868

その他

- ・郷土出身の方々との交流、
- 集団生活体験学習等



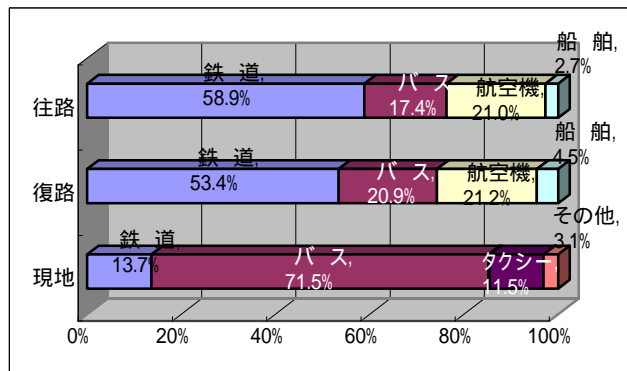
問5 平素と異なる環境における学習の展開する場所として、目的地をどこに設定したいと考えますか(複数回答可)

	回答 校数	目的地 (選択数)													
		北海道	北東北	南東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄	外国	
出 発 地	北海道	9	4	5	4	2									
	北東北	18	2			16			2	1		1	1		
	南東北	23	4			21		1	1	3			4	2	
	関東	53	5	1	8	1	10		1	45	4	1	1	3	
	甲信越	29				4	2	2		23	6		1	3	
	東海	37	1			20	2		1	19	9		2	4	1
	北陸	14				8	1			7	1			2	
	近畿	53	12	1	1	23	14	1		4		20	25	1	
	中国	29	1			4				21		7	8	2	
	四国	22	2			6	1			10	1	11	10	1	
	九州	45				1			1	22	6	17	11	2	
	沖縄	7	1				1		1	1	1	5		1	
	未記入	1				1									
合計	340	32	7	13	107	31	4	5	153	33	1	65	71	10	

外国 ・ニュージーランド、オーストラリア、東南アジア、韓国、台湾等

問6 往復・現地を含め利用する主な交通機関は、何をお考えですか。

	往路	復路	現地
鉄道	216	189	49
バス	64	74	256
航空機	77	75	0
船舶	10	16	1
タクシー	0	0	41
その他	0	0	11
合計	367	354	358

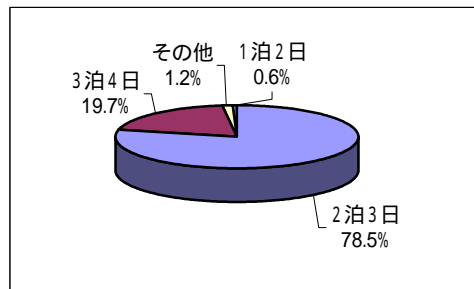


その他

・公共交通機関、市電、路面電車、徒歩

問7 旅行に要する日数を何日必要かお書きください。

2泊3日	259
3泊4日	65
1泊2日	2
その他	4
合計	326

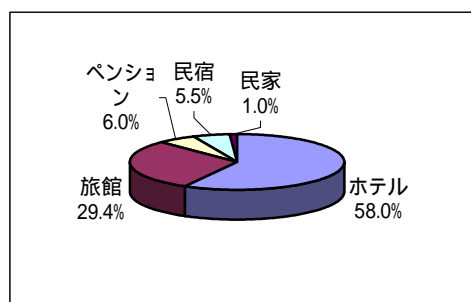


その他

4泊5日、5泊6日(外国の場合)

問8 旅行で利用したい宿泊施設をお答えください。

ホテル	221
旅館	112
ペンション	23
民宿	21
民家	4
その他	0
合計	381



その他

なし

問9 見学地・宿泊施設等への要望をお書きください。

- (1) 安全の確保 37
 - ・安全で衛生的な宿泊施設、危機管理資料の準備(災害時の安全対策、避難経路、急患対策等)
 - ・地震時の災害に対応できる施設・設備
 - ・安全な見学、体験施設
 - ・地域の環境、教育的環境
- (2) 情報収集 4
 - ・職場体験ができる見学地、企業の情報がほしい
 - ・事前情報(事前学習に役立てたい)
 - ・中学生に向けた説明がほしい
- (3) 交通機関(航空機) 3
 - ・途中の乗り継ぎなしで現地直行便がほしい
 - ・飛行機の利用を可能にしてほしい
- (4) 受け入れ地域 10
 - ・個人・グループ行動に優しい街づくり 4
 - ・短時間で次の見学地へ移動できる地域 5
 - ・班別学習の場が充実していること 1
- (5) 宿泊施設 42
 - ・一校一館または1フロア貸し切り希望 19
 - ・施設設備の安全管理 3
 - ・全員で集会やレクのできる大広間や食堂があること 3
 - ・宿泊施設内にミーティング(30～40人で)できる場が複数あること 3
 - ・音声、騒音が聞こえない施設
 - ・宿泊施設におけるテレビの制限
 - ・大きなお風呂、おいしい食事、ゆったりとした広い部屋
 - ・生徒の状況を把握し、従業員の接遇がよいこと。あたたかいもてなしがあること 8
 - ・現地の特色を生かした食べ物等を工夫して出してもらいたい(食による文化の違いの体験) 3
- (6) 現地の人々との触れ合い 11
 - ・地域の方々とのふれあいや絆を大切に、心豊かな人間性を育みたい 6
 - ・人間味、人情を感じる接し方 2
 - ・旅行の目的を理解し、受け入れ、対応をしていただけること
 - ・みやげ品を売る目的だけを強調するだけでなく、良い交流ができるように配慮してほしい
 - ・ふれあいの中で集団生活のルールを学べるよう協力願いたい
- (7) 体験学習 11
 - ・体験学習をできる地域・施設 4
 - ・雨天時でも体験学習ができるプログラムの充実
 - ・産業遺跡等の歴史的背景を学び、工場等で体験学習
 - ・漁村体験
 - ・生徒が主体的に判断・行動できる活動範囲を広げる
 - ・現地のガイドが充実
 - ・戦争体験(原爆も)等、地震体験等の生の声を聞かせたい
 - ・入館、拝観料等を無料にしてほしい
- (8) 費用 8
 - ・経済的な負担を少なく 5
 - ・団体旅行で1年以上前から予定を立てているのに、費用が一般の方々と比べると高すぎる(部屋の人数、食事等の比較も)もっと安くならないだろうか
 - ・見学地については安全面、費用面で負担が少ないこと
 - ・離島割引の適用が拡大できればありがたい
(生徒一人当たり36,000円、町から補助を受けますが、町財政を圧迫している)

5. 考察

(1) これからの修学旅行に対する関心の高さと修学旅行の重要性

教育改革の時期に、「これからの修学旅行はどうあったらよいか」をテーマとして全国637校の国公立中学校にアンケート調査したが、関心が高く340校、53.4%の回収率で、回答をいただくことが出来た。

問1で98%以上の学校がこれからも修学旅行を存続していきたいと考えていることは、教科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間と関連を図りながら、人間としての生き方や人間形成に寄与していると感じられる。

(2) 修学旅行のねらいと学習内容

問3のねらいは、主たる3点で94%以上を占めているが、その他の少数意見を見ると人間性を育むもの、社会性や行動力、総合的な学習の時間との連携においての課題追求や平和学習などの課題学習など、非常に多様化している。同様に問4の学習内容も多様化している。

「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ための視点として特に、次の実践が求められる。

未知の地で、未知の自然や文化に親しみ、未知の人々との出会い。

未知のものへの発見と驚き、感動。

(3) 見学地・現地への要望

問9の要望の内容を見ると、やはり安全・衛生に関することは、重視されていることがわかる。特に、多様化に伴う新しい学習の試みを取り入れる場合は、十分な事前の情報収集と安全確認が必要だろう。

宿泊施設への要望の中に、一校一館又は貸切りで連泊というのが、多数見られた。貸切りは、人数的にちょうど良いというわけではないから、空き部屋も借りることになり、当然、一人当たりの経済的な負担は多くなるわけである。

(4) まとめ

あらためて修学旅行の重要性が確認されたアンケートであった。日常生活で生徒たちの生活体験が不足しており、人との関わりや協力して物事に取り組むなど、集団生活の在り方を学ぶ機会が減少している。最終学年で修学旅行を実践することによって、今まで学んできた学校生活のすべてが集約され、3年間の集大成となるだろう。また、卒業後の新たなスタートの基盤ともなるものと思う。

修学旅行のねらいや学習内容が多様化されてきていることにより、「総合的な学習の時間」の重要性が増加している。幅広い学習の場の提供をすることが、未知のものとの出会いや感動を与え、生徒に広い視野をもたらすものとする。

修学旅行に関する意識調査2

(各地方観光行政の意識)

1. 実施目的

修学旅行は近年、旅行先や学習の幅が広がり、その形態は多様化している。なかでも体験活動が重視され多くの学校で実施されているが、地域の人と深く関わる修学旅行における学びの展開は、受け入れ地の理解と協力的にはなし得ない重要な学校行事である。

一方各地で、修学旅行に対しては経済的効果だけでなく、地域を活性化させる引き金としても期待されており、受け入れ側の修学旅行誘致の方向に対する意識を探ることを目的とした。

2. 実施対象と回答数

全国都道府県並びに政令指定都市の観光所管部署及び日本コンベンション・コンgress協会加盟団体を対象とした。

	都道府県市	コンベンション協会	合計
調査数	63	68	131
回答数	42	30	72
回答率	66.7%	44.1%	55.0%

3. 調査実施日

平成19年3月

4. 実施項目と回答集計

修学旅行誘致の必要性

誘致が地域活性化に役立つ内容

修学旅行誘致に際して、力を入れている分野

修学旅行誘致に際しての課題

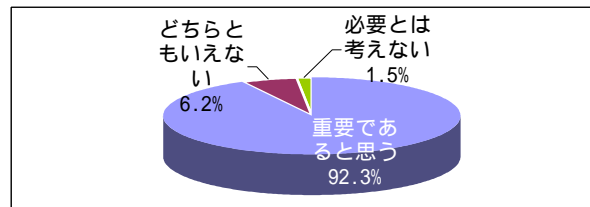
具体的方策として取り入れたい重点項目

施策実施の主体

地域の特徴（アピールしたい価値・魅力）

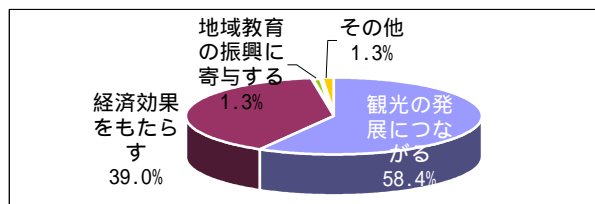
問1 地方行財政の自立と地方分権の確立が求められているなかで、修学旅行の誘致の必要性をどのようにお考えですか。

重要であると思う	60
どちらともいえない	4
必要とは考えない	1
合計	65



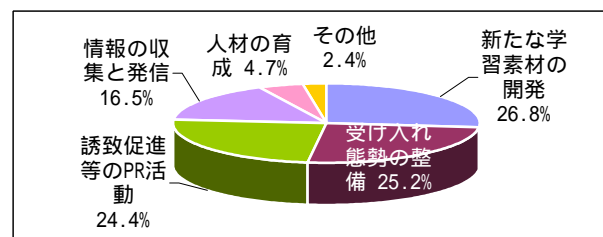
問2 修学旅行誘致は地域の活性化のために、最優先としてどの点に役立つと思いますか。（複数回答）

観光の発展につながる	45
経済効果をもたらす	30
地域教育の振興に寄与する	1
その他	1
合計	77



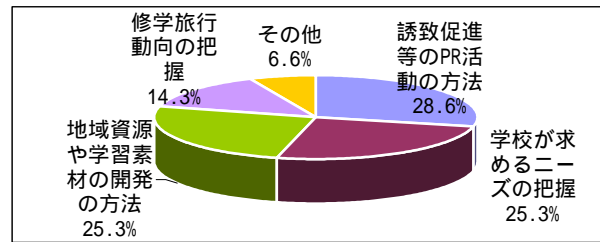
問3 今後、修学旅行誘致に際して、どのような分野に特に力をいれていきたいとお考えですか。（複数回答）

自然・歴史・文化・産業を基軸にした新たな学習素材の開発	34
受け入れ態勢の整備(交通・食事・宿泊・案内・人情の整備)	32
誘致促進等のPR活動	31
情報の収集と発信	21
観光に携わる人材の育成	6
その他	3
合計	127



問4 現在、修学旅行誘致に際し、貴州市が直面している課題は何ですか。(複数回答)

誘致促進等のPR活動の方法	26
学校が求めるニーズの把握	23
地域資源や学習素材の開発の方法	23
最近の修学旅行動向の把握	13
その他	6
合計	91

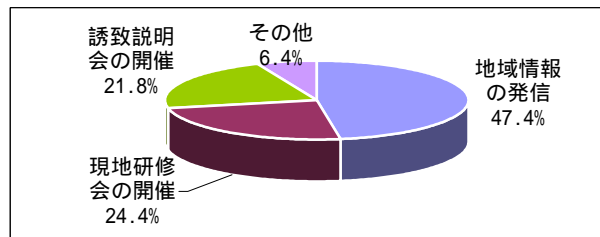


その他

- ・受け入れ地の選定
- ・誘致に携わる人員等の確保
- ・農家民泊に対する規制緩和

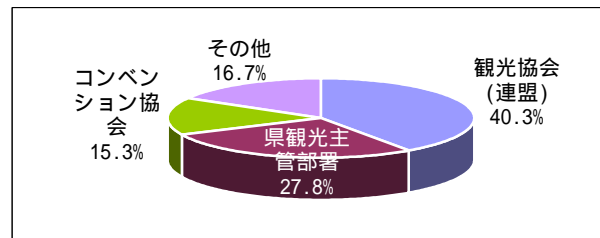
問5 具体的方策として取り入れたい重点事項は何ですか。(複数回答)

地域情報の発信	37
現地研修会の開催	19
誘致説明会の開催	17
その他	5
合計	78



問6 以上のような事項について、貴州市の修学旅行誘致の施策実施の主体をどちらにおかれていますか。

観光協会(連盟)	29
県観光主管部署	20
コンベンション協会	11
その他	12
合計	72

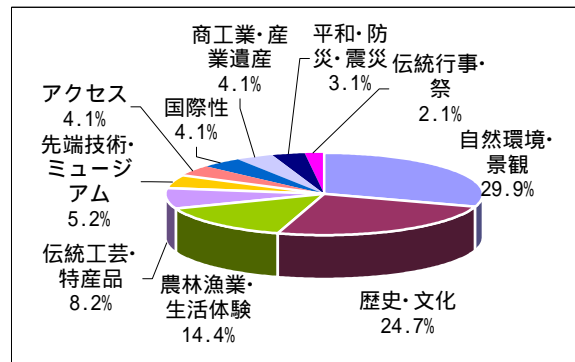


その他

- ・市町村及び同観光協会(振興会)
- ・県教育旅行誘致対策協議会等
- ・四国観光立県推進協議会

問7 各州市の地域の特色(アピールしたい価値・魅力)

分類	分類	分類	ポイント数
自然資源	自然系	自然環境・景観	29
		歴史・文化	24
文化資源	人文系	伝統行事・祭	2
		アクセス	4
	都市系	先端技術・ミュージアム	5
		国際性	4
		農林漁業・生活体験	14
産業資源	産業系	商工業・産業遺産	4
		伝統工芸・特産品	8
		平和・防災・震災	3
その他資源	テーマ系	平和・防災・震災	3



各州市のアピール内容を全修協で分類整理し、各々のアピールにポイントを付加した。分類方法として、自然・文化・産業・その他資源に大別し、さらに系統別に分類した。系統別分類の主な内容として、自然系 ... 自然・風土、自然環境・景観(人工的でない自然景観)。人文系 ... 歴史的背景を持つもの、文化・習俗・歴史(出来事・足跡・建造物等)、伝統行事・生活習慣・人の営み等。産業系 ... 農林水産、商工業及びそれらの体験活動に関わるもの、近代的産業遺産。1 州市で複数のアピールポイントのため、回答数と一致しない。

5. 考察

(1) ほとんどの地域で修学旅行誘致の必要性を重視し、修学旅行は「観光の発展」「経済効果」をもたらす地域活性の大きな柱と位置づけている。

全国的な修学旅行の誘致は、いっそう体験的な学習が重視され、修学旅行での学習内容の多様化や行き先の幅が広がる中で、今後地域と一体化した修学旅行の関わり方を考えていく必要があるだろう。

(2) 今後の修学旅行誘致に際しては、「新たな学習素材の開発」「受け入れ態勢の整備」「誘致促進等のPR活動」に特に力を入れていきたいとしている。一方、その具体的な開発や展開の方法、学校の求めるニーズの把握に困惑がみられ、誘致の直面の課題となっている。

修学旅行は学校教育(学び)であり、特徴的な取り組みとして班別行動(主体性の育成)、体験学習(感動を伴う学習の深化)が行われている。地域が固有する「自然・文化とのふれあい」「地域とのふれあい」「人とのふれあい」を通して集団・宿泊行事(体験)としての修学旅行が活かされていることを考える必要があるだろう。

(3) 誘致の具体的な施策として「地域情報の発信」が一番にあげられている。情報化社会の今日、対象に応じニーズを的確に捉えたマーケティング戦略のもと、さらに情報収集の継続的な実施と興味を引く質の高い情報(地域が認めた価値あるもの)を積極的に発信していく必要があるだろう。